

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、コミュニケーション力やチームワーク力等、社会人基礎力を身につけた地域や社会に本当に貢献できる人材の育成です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

短期大学教育では、ミッシヨンの明確化と教育の質保証の重要性が明らかになっていきます。短大独自の職業・キャリア教育方法の開発は急務であり、IRシステムの構築は共同で取り組むべき重要なテーマです。

―なぜこの7短大で連携することになったのですか。

「短期大学コンソーシアム九州」における10年間の活動が基礎となっています。教育の質保証と職業・キャリア教育のスタンダードの構築について、7つの短期大学でタッグを組むことにしました。具体的には、教養教育・人間教育・女子教育に強みを持つ短期大学、学生支援・実務教育に強みを持つ短期大学、社会人基礎力の養成に強みを持つ短期大学、専門就職に強みを持つ短期大学の地域人材育成の教育力を結集します。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は、職業・キャリア教育の連携校の事例研究と「共同教学IRネットワークシステム」の基盤整備を行います。平成25年度から、合同アクティビティの開催、国内外の事例の分析、スタンダードの検討をスタートさせ、また、IRシステムの試験導入と改善を経て、平成28年度にいずれも完成予定です。また、取組の期間終了後も活動を継続・発展させていきたいと考えています。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

この取組では、新たに学生調査や、学修ポートフォリオ等がネットワーク上で可能となります。連携機関の「日本私立短期大学協会」「日本インターシップ学会」から助言を得て、短期大学士課程の質保証システムの構築とその向上に重点を置きます。最終的には、このシステムを連携校の在学生全員が活用できるようにする計画です。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思いますか、それはどのようなものですか。

職業・キャリア教育の充実を図ります。連携機関と共に国内外の事例を収集検討し、短期大学における職業・キャリア教育のスタンダードを構築します。平成25年度には、職業・キャリア教育の一環として、160名程度の連携校の学生が合同アクティビティに取り組みます。学生は社会人基礎力を伸ばします。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージを教えてください。

学生は合同アクティビティを経験すると、チームワーク力、コミュニケーション力等の社会人基礎力を身につけることができます。能力の向上は、今回構築するIRシステムをもって確認します。そのような学生を平成28年度までに340人を目標に社会に送り出します。地域や社会で広く活躍するよう全力で取組を進めてまいります。

### ステークホルダーからのメッセージ

日本私立短期大学協会 会長

佐藤 弘毅

短期大学には、ミッシヨンの明確化と教育の質保証という課題があり、連携取組には職業教育と質保証のあり方の検討を要請しました。7短大の力を結集し、新しい教育モデルを構築し、地域に貢献できる人材を育成することは、短期大学にとって極めて有益なことであります。そのために、日本私立短期大学協会としても、情報提供や要望の提示、広報といった場面に参画し7短大と協働して、取組みを推進していきたいと考えます。この取組を通じて、特に、地方の短期大学の進むべき道筋の一つが開かれることを期待しています。

